

## 男子部中等科・高等科

### 「心・体・声を使って表現する」

濱野稔子

今年度は「表現」というテーマ設定にて、参加生徒に「表現とは何か」「自分の表現を追求する」ということを考えさせるところから始まった。発声練習や身体訓練などを行いながら、練習の中で「朗読」を行ったことで、当日の舞台発表でも各人各様の「朗読」が披露されることとなった。参加生徒の構成は高3が1名、中2が2名の少数精鋭であった。

#### I. 活動記録

- 1日目：オリエンテーション「表現とは何かを考える」図書館にて朗読素材の文章さがし
- 2日目：身体&発声&滑舌練習、朗読素材の選定、朗読練習（ビデオ撮り）
- 3日目：身体&発声&滑舌練習、アナウンストレーニング短文読み上げ
- 4日目：身体&発声&滑舌練習、短文読み上げ、プロ講師による朗読トレーニング
- 5日目：身体&発声&滑舌練習、CMナレーション、発表練習
- 6日目：身体&発声&滑舌練習、短文読み練習、舞台での練習（録画）
- 7日目：身体&発声&滑舌練習、発表順番決め、舞台での練習、通し稽古
- 8日目：身体&発声&滑舌練習、通し稽古
- 9日目：身体&発声&滑舌練習、リハーサルとリハーサル見学、通し稽古
- 10日目：掲示物作成、舞台での通し稽古
- 11日目：舞台での発表（本番）

#### 【発声・身体訓練】



学園内ランニング、腕立て伏せ、腹筋、ストレッチ、発声練習、滑舌（早口言葉）練習、台詞

#### 【プロの講師による朗読練習】

プロの朗読講師、山下ゆか氏を練習4日目にお迎えし、準備運動、基本の姿勢、体の使い方、ナレーション（色をつける読み）、劇のセリフ読みなどを行った。「相手に伝えるように読むとはどうい



うことか」「声に色をのせる（つける）とはどういうことか」「読み手の心と意志が伝わるのが大切」ということを教わった。また、一人ひとりの生徒の良いところをフィードバックいただき、その後の彼らの良き糧となった。

## II. ふりかえり

はじめは自信のなかった中等科生も、日々の練習で目に見えて声が出るようになり、肯定的なフィードバックをお互いにかけてあうことで、自信を深めていくようになった。

ここで、参加生徒全員のふりかえりを抜粋する。「今まで『表現とは何か』ということは考えたこともありませんでした」「最初のころは人数が少ない影響なのかとてもどんよりした空気で『やっぱりこのグループに入って間違いだったかな』と思うこともありましたが、しかし、練習をしていくうちに『表現する面白さ』が分かり、だんだん練習が楽しく感じ始めました」「自分は人前に立ったりして発言するとき、焦ってしまうほど苦手ですが、今回の朗読、CMアナウンス発表でそれが克服できたと思います」「自分は他のメンバーと比べて発声するのが苦手でしたが、日に日に上達してきてすごく喜ばしい練習期間だったと思います」

「表現は何なのかという疑問をいただきながら練習し追求していきましたが追求していくことで色々なことが上達し成長することも今回の活動で学びました。」



「今まで深く考えたことがなかった『読み方』をとことん学び、自分の声の出し方の特徴や朗読、

ナレーションをする時のポイント、また『読む』為の体の使い方を知れました。人になにかを伝える為には自分が伝えられるように準備、練習することがとても重要で大切なこと、この期間を通してそんなことを感じました」

朗読は、日々の練習そのものはとても地味なものであり、だからこそ、ちょっとした自分の変化や成長を感じることもでき、参加生徒一人ひとりがそれに気づくことができたと思う。

また、ただ読むだけでなく、体をどう使えばいいかや、動きながらの読みに挑戦するなど、さまざまな気づきと工夫が生まれた。

小さなグループではあったが、それぞれの変化と成長はほかのどのグループにも負けないくらい大きく、輝かしいものであったと思う。